

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月12日

【四半期会計期間】 第49期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 株式会社テーオーシー

【英訳名】 TOC Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 大谷 卓男

【本店の所在の場所】 東京都品川区西五反田七丁目22番17号

【電話番号】 03(3494)2111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事務管理部門担当 冨塚 聡

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区西五反田七丁目22番17号

【電話番号】 03(3494)2111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事務管理部門担当 冨塚 聡

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第48期 第3四半期 連結累計期間	第49期 第3四半期 連結累計期間	第48期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(百万円)	15,661	15,173	20,726
経常利益	(百万円)	4,132	3,984	5,417
四半期(当期)純利益	(百万円)	2,550	3,673	3,349
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	4,167	3,801	4,005
純資産額	(百万円)	72,153	74,693	71,991
総資産額	(百万円)	135,969	133,270	135,328
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	20.82	30.09	27.36
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	52.7	55.6	52.8

回次		第48期 第3四半期 連結会計期間	第49期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	8.06	7.64

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日～平成26年12月31日)における当社グループの主力事業であります不動産賃貸事業におきましては、東京都心部を中心に企業業績の改善を背景としたオフィス需要により空室率は低下傾向にあり、高グレード、好立地等のビルから賃料水準の上昇の兆しが見受けられるようになりました。また、商業ビルにおきましては、個人消費が消費税による反動からは戻りつつあるものの、依然、盛り上がりを欠いたまま推移し厳しい事業環境が続いております。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間における売上高は15,173百万円(前年同四半期比3.1%減)、経常利益は3,984百万円(前年同四半期比3.6%減)となり、四半期純利益はTOC西五反田8の譲渡による固定資産売却益1,701百万円を計上したことから3,673百万円(前年同四半期比44.0%増)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

不動産事業におきましては、ビルの特性に応じたテナント獲得の強化に取り組み収益の拡大に努めましたが、TOC西五反田8の譲渡による収入減等により、当事業での売上高は12,152百万円(前年同四半期比3.2%減)となり、営業利益は4,060百万円(前年同四半期比4.7%減)となりました。

リネンサプライ及びランドリー事業におきましては、大口顧客先であるホテルからの受注が安定的に推移し、売上高は1,270百万円(前年同四半期比0.2%増)となりましたが、新規取引に伴うリネン補充の償却負担等により、営業利益は45百万円(前年同四半期比68.1%減)となりました。

その他におきましては、スポーツクラブ及び温浴施設事業では、スポーツクラブの収益は伸びておりますが事業全体では若干の減収減益、ビル管理関連サービス事業では、請負工事の受注減により減収減益となりました。これらの結果、その他での売上高は1,750百万円(前年同四半期比4.9%減)となり、営業利益は114百万円(前年同四半期比4.9%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、次のとおりであります。

資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,057百万円減少し133,270百万円となりました。主な増加は、現金及び預金が4,435百万円であり、主な減少は、有形固定資産が6,573百万円であります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ4,759百万円減少し58,577百万円となりました。主な減少は、1年内返済予定の長期借入金を含めた長期借入金が2,159百万円及び1年内償還予定の社債を含めた社債の償還が1,712百万円であります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,702百万円増加し74,693百万円となりました。主な増加は、四半期純利益3,673百万円であり、主な減少は、剰余金の配当1,098百万円であります。

自己資本比率は、前連結会計年度末の52.8%から当第3四半期連結会計期間末は55.6%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(5) 従業員の状況

当第3四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数に著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売の実績に著しい変動はありません。

(7) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画から著しい変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	547,517,000
計	547,517,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	136,879,352	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	136,879,352	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		136,879,352		11,768		9,326

(6) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成26年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,792,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 121,993,400	1,219,934	
単元未満株式	普通株式 93,352		
発行済株式総数	136,879,352		
総株主の議決権		1,219,934	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式5株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社テーオーシー	東京都品川区西五反田 7丁目22-17	14,792,600		14,792,600	10.80
計		14,792,600		14,792,600	10.80

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,422	12,857
受取手形及び営業未収入金	1,084	1,140
商品及び製品	20	29
仕掛品	15	15
原材料及び貯蔵品	226	222
繰延税金資産	287	177
その他	267	295
貸倒引当金	33	35
流動資産合計	10,290	14,702
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	55,618	51,513
機械装置及び運搬具（純額）	150	146
土地	44,163	40,939
建設仮勘定	1,107	1,893
その他（純額）	168	140
有形固定資産合計	101,207	94,633
無形固定資産		
借地権	7,076	7,076
施設利用権	47	45
その他	17	18
無形固定資産合計	7,141	7,140
投資その他の資産		
投資有価証券	15,425	15,552
保険積立金	880	900
繰延税金資産	11	10
その他	371	328
投資その他の資産合計	16,688	16,792
固定資産合計	125,038	118,567
資産合計	135,328	133,270

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	57	82
短期借入金	15,451	15,691
1年内償還予定の社債	494	100
1年内返済予定の長期借入金	5,205	6,376
未払金	577	496
未払消費税等	174	431
未払法人税等	1,225	919
賞与引当金	88	21
その他	3,926	2,834
流動負債合計	27,201	26,953
固定負債		
社債	1,318	-
長期借入金	22,500	19,170
長期預り保証金	9,119	9,208
役員退職慰労引当金	311	289
環境対策引当金	59	59
退職給付に係る負債	484	498
資産除去債務	261	261
繰延税金負債	2,025	2,096
その他	55	39
固定負債合計	36,135	31,623
負債合計	63,336	58,577
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,768	11,768
資本剰余金	10,082	10,082
利益剰余金	51,256	53,831
自己株式	5,986	5,987
株主資本合計	67,120	69,694
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,355	4,461
繰延ヘッジ損益	22	14
その他の包括利益累計額合計	4,333	4,446
少数株主持分	537	551
純資産合計	71,991	74,693
負債純資産合計	135,328	133,270

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	15,661	15,173
売上原価	9,707	9,458
売上総利益	5,954	5,714
販売費及び一般管理費	1,420	1,484
営業利益	4,533	4,230
営業外収益		
受取利息	4	7
受取配当金	156	208
持分法による投資利益	15	17
受取事務手数料	50	53
その他	33	18
営業外収益合計	261	306
営業外費用		
支払利息	592	509
その他	69	42
営業外費用合計	662	551
経常利益	4,132	3,984
特別利益		
固定資産売却益	-	1,701
投資有価証券売却益	179	-
特別利益合計	179	1,701
特別損失		
固定資産除却損	2	-
投資有価証券売却損	187	-
特別損失合計	189	-
税金等調整前四半期純利益	4,122	5,686
法人税、住民税及び事業税	1,464	1,880
法人税等調整額	54	117
法人税等合計	1,518	1,998
少数株主損益調整前四半期純利益	2,603	3,687
少数株主利益	53	14
四半期純利益	2,550	3,673

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,603	3,687
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,555	105
繰延ヘッジ損益	8	7
その他の包括利益合計	1,563	113
四半期包括利益	4,167	3,801
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,114	3,787
少数株主に係る四半期包括利益	53	14

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産及び投資その他の資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
減価償却費	2,461百万円	2,337百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	553	4.5	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年11月12日 取締役会	普通株式	549	4.5	平成25年9月30日	平成25年12月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	549	4.5	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金
平成26年11月11日 取締役会	普通株式	549	4.5	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	不動産事業	リネンサプライ及びランドリー事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	12,553	1,267	13,821	1,839	15,661		15,661
セグメント間の内部 売上高又は振替高	712	37	749	88	838	838	
計	13,266	1,305	14,571	1,928	16,499	838	15,661
セグメント利益	4,260	143	4,403	120	4,524	9	4,533

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理関連サービス事業、製薬事業、スポーツクラブ及び温浴施設事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額9百万円には、セグメント間取引消去5百万円、減価償却の調整額4百万円が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	不動産事業	リネンサプライ及びランドリー事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	12,152	1,270	13,422	1,750	15,173		15,173
セグメント間の内部 売上高又は振替高	716	35	752	82	835	835	
計	12,868	1,306	14,175	1,832	16,008	835	15,173
セグメント利益	4,060	45	4,106	114	4,221	9	4,230

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理関連サービス事業、製薬事業、スポーツクラブ及び温浴施設事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額9百万円には、セグメント間取引消去5百万円、減価償却の調整額3百万円が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額(円)	20.82	30.09
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,550	3,673
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,550	3,673
普通株式の期中平均株式数(株)	122,495,105	122,086,900

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成26年11月11日開催の取締役会において、平成26年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり第49期の中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額 549百万円
1株当たりの中間配当金 4.5円
支払請求権の効力発生日並びに支払開始日 平成26年12月8日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月6日

株式会社テーオーシー
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	御子柴	顯
--------------------	-------	-----	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	美久羅	和美
--------------------	-------	-----	----

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社テーオーシーの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社テーオーシー及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。